

「ad plus～広告の視点～」では、日本経済新聞に掲載された注目の広告を、その狙いや目的、反響などとともにご紹介しています。

地方公共団体の広報事例



熊本県知事  
蒲野郁夫

## 創造的復興へ

### 熊本はこれからも進み続けます。

甚大な被害をもたらした熊本地震から、3年が経りました。皆さまの多大なご支援、本当にありがとうございます。熊本は一步步復興への道のりを歩んでいます。そして、私たちが目指すのは、創造的復興。単に元の姿に戻すのではなく、復旧・復興をさらなる発展につなげていくこと。頑張る熊本をこれからもよろしくお願ひします。

熊本県知事 蒲野郁夫

熊本県では、熊本地震からの復旧・復興を一日も早く、確実に進めていくため、「創造的復興に向けた重点10項目」を定め、復旧・復興全体の加速化を図っています。これからも、被災された方々の1日も早いすまいの再建と、熊本の将来の発展につながる創造的復興に向けて、県民一丸となって進み続けていきます。

#### 創造的復興に向けた重点10項目

- 「すまい」の再建 「約30,000人がすまいの再建を実現」  
いまだ16,000人を超える方が仮設住宅で生活されています。来春までに1,717戸の災害公営住宅が全て完成します。県では、被災者一人ひとりに寄り添い、すまいの再建に向けたさまざまな支援を行っています。
- 阿蘇へのアクセスルートの回復 「阿蘇山上への登山道は全て開通」  
国道57号北側復旧ルートや国道325号阿蘇大橋が本年度完成し、阿蘇へのアクセスがさらに良くなります。
- 熊本城の復旧 「熊本城の特別公開が10月5日開始」  
天守閣外観復旧を記念して、特別公開がスタートします。来春には特別見学通路も完成予定です。
- 国際スポーツ大会の開催 「ラグビー9月・女子ハンド11月から開催」  
今秋、ラグビーワールドカップ2019と女子ハンドボール世界選手権大会が熊本で開催。復旧・復興が進む熊本の姿を国内外に発信します。
- 災害廃棄物の処理 「家屋などの公費解体は昨年12月に全て完了」  
約3万6千棟の家屋などの解体は、昨年の12月に全て完了。本県で使用した廃棄物処理プラントは、昨年の7月以降で被災した阿蘇山に提供し、再活用されています。
- 益城町の復興まちづくり 「1月から県道拡幅の工事に着手」  
最も被害の大きかった益城町では、復興に挑みまちづくりを推進するため、町の中心部を通る道路の拡幅工事や土地区画整理事業を進めています。
- 被災企業の事業再建 「被災企業など4,861件が復旧に取り組む」  
被災した企業の復旧費用を助成するグループ補助金は、99.3%に当たる4,861件（交付額1,338億円）の交付が決定。着実に店舗や工場などの復旧が進んでいます。
- 被災農家の営農再開 「被災農家約15,000戸が営農再開」  
水が来ない水田の作物転作や農地の復旧、大区画化などに取り組み、既に被災農家の99.7%（約15,000戸）の営農再開が実現しました。
- 大空港構想Next Stageの実現 「アクセス改善に向けた鉄道整備の検討がスタート」  
阿蘇くまもと空港は、「コンセッション方式」による民間の資金やノウハウを取り入れた整備が進んでいます。また、アクセス改善のため、新しい鉄道の整備に向けた取り組みを進めています。
- 八代港のクルーズ拠点整備 「国・県・民間連携による拠点整備が進む」  
年間200隻の大型クルーズ船寄港を目指し、旅客ターミナルやくまモンパークなどの「おもてなしゾーン」の整備に取り組んでいます。

◎同日熊本県「すまい」  
お問い合わせ先：熊本県広報グループ TEL.096-333-2027

日経ARアプリをくまモンの顔にかざすと、復興が進む熊本県の様子をご覧いただけます。復興が進む熊本県の様子をご覧ください。アプリの詳細は「日経AR」で検索してください。

2019年4月14日  
日経朝刊 全15段・カラー



熊本県知事  
広報グループ  
小堀 貴史 氏

熊本地震から3年。震度7の地震を2度経験した熊本県は、4月14日の前震の日に合わせて「復旧・復興が進む熊本の今」や「復興支援への感謝」などのメッセージを、日経ARを活用して掲載した。くまモンが大きく目を引くシンプルな構成だが、創造的復興への歩みを伝えるため、重点的に取り組んでいる施策などを紹介した。

「掲載後、多くの声をいただいた」。熊本県知事 蒲野郁夫 氏。熊本の小堀貴史氏はこう語る。「時間の経過とともに地震の記憶が薄れていたが、紙面を見て改めて熊本地震に注目した」「また多くの方が仮設住宅で生活されており、継続した支援が必要だと感じた」など、全国からさまざまな反響が寄せられたという。また、「単に元の姿に戻すのではなく、将来の発展を見据えた創造的復興は、さまざまな観点から取り組みを進めるといった強い決意のこもったメッセージとして受け止めることができた」としている。

創造的復興に向け、着実に歩みを進める熊本県。「今後も継続して情報発信を行ってきたい」としている。